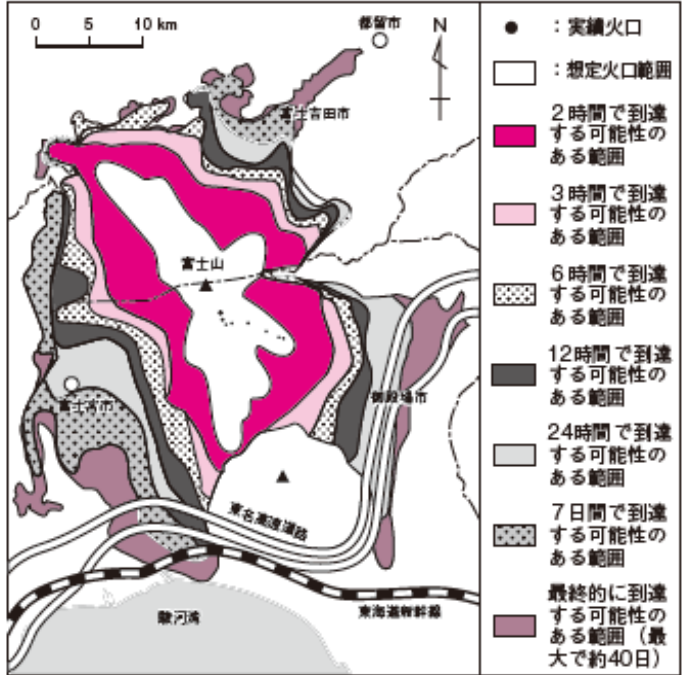
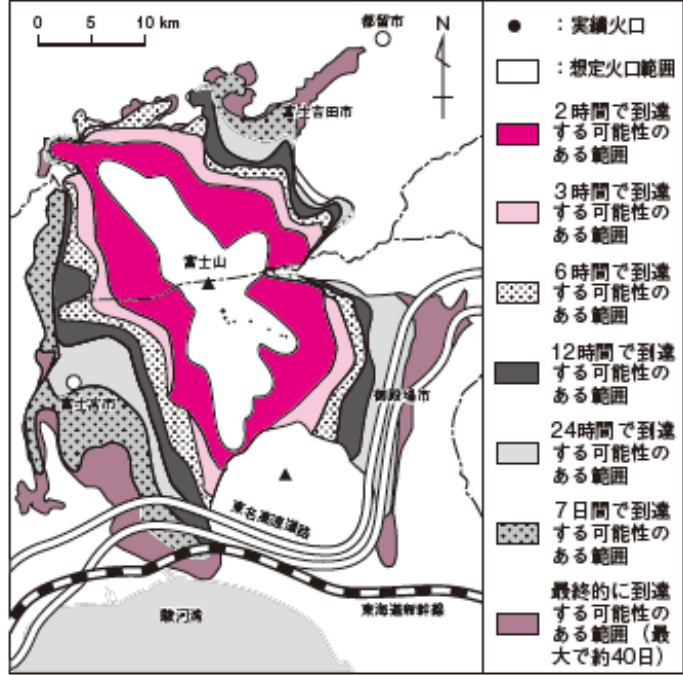


ページ	1刷 (2024年3月25日発行)	2刷 (2024年6月7日発行)
22	<p>海岸では、潮の満ち引きや波・風などの影響によって地形が変化する。砂の堆積作用によって砂浜海岸が形成され、河川が運んできた砂礫や、沿岸流（海岸線とほぼ平行に流れる潮の流れ）で運ばれてきた砂礫が堆積することで砂嘴や砂州ができる。砂嘴とは、湾口や岬の先端に堆積した砂礫が沿岸流によって内湾側に湾曲したもの、砂州とは砂嘴が成長して入り江や湾を閉ざすように伸びたものである（京都府の天橋立など）。砂州が長く伸びて陸続きとなった島は陸繋島とよばれ（北海道の函館山・秋田県の男鹿半島など）、島とつながる砂州を陸繋砂州（トンボロ）という。また、海の一部が砂州などによって囲まれたラグーン（潟湖）などの地形も生じる。</p>	<p>海岸では、潮の満ち引きや波・風などの影響によって地形が変化する。砂の堆積作用によって砂浜海岸が形成され、河川が運んできた砂礫や、沿岸流（海岸線とほぼ平行に流れる潮の流れ）で運ばれてきた砂礫が堆積することで砂嘴や砂州ができる。砂嘴とは、湾口や岬の先端に堆積した砂礫が沿岸流によって内湾側に湾曲したもの、砂州とは砂嘴が成長して入り江や湾を閉ざすように伸びたものである（京都府の天橋立など）。砂州が長く伸びて陸続きとなった島は陸繋島とよばれ（北海道の函館山・秋田県の男鹿半島など）、島とつながる砂州を陸繋砂州（トンボロ）という。また、海の一部が砂州などによって囲まれたラグーン（潟湖）などの地形も生じる。</p>
71	 <p>(山梨県ウェブサイトなどより)</p>	 <p>▲富士山 溶岩流到達の可能性マップ (山梨県ウェブサイトなどより)</p>

<p>87</p>	<p>日本の通信 また、インターネットが普及して安定した高速通信が可能となったほか、携帯電話の契約者数の増加によって固定電話契約者数は減少した。</p>	<p>日本の通信 インターネットが普及して安定した高速通信が可能となったほか、携帯電話の契約者数の増加によって固定電話契約者数は減少した。</p>
<p>153</p>	<p>価格弾力性の計算式 $\text{価格弾力性} = \text{需要・供給の変化率}(\%) = \text{価格の変化率}(\%)$ 「1」を下回ると価格弾力性は小さく、上回ると大きい。</p>	<p>価格弾力性の計算式 $\text{価格弾力性} = \text{需要・供給の変化率}(\%) \div \text{価格の変化率}(\%)$ 「1」を下回ると価格弾力性は小さく、上回ると大きい。</p>
<p>267</p>	<p>対策として、1992年の環境サミット (p. 270) では大気中の温室効果ガス濃度の安定化をめざす気候変動枠組条約 (地球温暖化防止条約) が採択された。そして、1997年に地球温暖化防止京都会議 (COP3) が開かれ、先進国は温室効果ガスの排出量を減</p>	<p>対策として、1992年の地球サミット (p. 270) では大気中の温室効果ガス濃度の安定化をめざす気候変動枠組条約 (地球温暖化防止条約) が採択された。そして、1997年に地球温暖化防止京都会議 (COP3) が開かれ、先進国は温室効果ガスの排出量を減</p>
<p>270</p>	<p>国連環境開発会議 (環境サミット (UNCED)) 環境と開発の両立をはかるため、1992年にブラジルのリオデジャネイロで国連環境開発会議 (環境サミット) が開かれた。 この会議では、「持続可能な開発」をスローガンに、地球社会における環境保全のあり方を示すリオ宣言と、具体的な行動計画であるアジェンダ21 (21世紀に向けての環境保護行動計画) が採択された。 そのほか、生物資源の保全などを目的とする生物多様性条約、気候変動枠組条約 (地球温暖化防止条約) なども採択された。</p>	<p>国連環境開発会議 (地球サミット (UNCED)) 環境と開発の両立をはかるため、1992年にブラジルのリオデジャネイロで国連環境開発会議 (地球サミット) が開かれた。 この会議では、「持続可能な開発」をスローガンに、地球社会における環境保全のあり方を示すリオ宣言と、具体的な行動計画であるアジェンダ21 (21世紀に向けての環境保護行動計画) が採択された。 そのほか、生物資源の保全などを目的とする生物多様性条約、気候変動枠組条約 (地球温暖化防止条約) なども採択された。</p>
<p>別冊 87</p>	<p>問2 次のグラフは、2015年から2022年までの日本・韓国 (Korea)・インド (India)・中国 (China) の工業生産指数を示したものである。グラフ中のA～Dに当てはまる国の組み合わせとして正しいものを、下の①～④の中から一つ選びなさい。</p>	<p>問2 次のグラフは、2016年から2022年までの日本・韓国 (Korea)・インド (India)・中国 (China) の工業生産指数を示したものである。グラフ中のA～Dに当てはまる国の組み合わせとして正しいものを、下の①～④の中から一つ選びなさい。</p>